

# 病理診断科 (病理部)



## ① 病理診断科 (病理部) の紹介

病理診断学は、病理組織診断を基盤に臨床情報を包括した総合診断の大系です。病理医は、臨床各科の生検検体を検鏡して病理組織診断を確定し、治療方針決定に寄与するとともに、手術切除検体に対しては、病変の性質や進行度を診断し、治療効果の判定や患者の予後予測の根拠となる情報を提供します。私ども病理診断科の診断件数は、組織診7700件、術中迅速430件、細胞診6,000件で、漸増傾向にあります。特定機能病院である大学病院では稀少症例も多く、多岐の疾患について研修する機会に恵まれています。病理解剖は年間約25例で、全臓器の詳細で系統的な解析を行い、病態や臓器相関の観点から、疾患や「ひとの死」について検証します。今日の高度先端医療、がん診療拠点形成、地域医療の振興、あらゆる局面で病理専門医は求められています。私どもと共に学び、病理専門医を目指しましょう。(臨床各科や法医学に進む方々の短期研修も歓迎)

## ② プログラムの目的と特徴

本プログラムでは、愛媛大学附属病院病理診断科を基幹型施設とし、3年間は大学と連携施設をローテーションして病理専門医資格の取得を目指します。県下の中核病院、がん専門施設、地域医療の病院が揃い、症例は豊富かつ多彩で、指導医も人材豊富です。当地の「愛媛病理研究会」を通じて、高水準の診断実務能力とリサーチマインドを備え、地域に根ざした病理医として成長する環境は整っています。

2022年12月現在、愛媛県の病理専門医は27名、7割が50歳以上です。高度先進医療やがん診療、地域医療を守るには、病理専門医の勤務する病院が不可欠です。このような状況ゆえに、じつは、愛媛で病理を目指すには多大なメリットがあります。あなたが今、病理専攻に入るならば、働き盛り～燻し銀世代の先輩病理医諸氏から英知に満ちた研修指導を受け、病理専門医となりキャリアを重ね、大学病院、大規模中核病院、専門施設、地域医療拠点病院で、思う存分活躍する進路が拓けます。私どもは、若い世代が希望を持って、医学医療の道を歩み続けられるように、専門医取得後のキャリア形成や、ライフサイクルに適した就労を、愛媛大学と地域ぐるみで支援します。

## ③ 経験目標

病理専門医試験の合格が研修の最終目標です。まずは指導医のもとで、病理解剖や病理組織診断に着手することです。3年後には資格要件を満たし、知識技能と態度にも優れた病理専門医を目指します。

### 専門医受験資格要件(主な項目抜粋) :

- \* 臨床研修2年修了+3年以上の病理専門研修修了 (推薦書、病理専門研修手帳)
- \* 死体解剖保存法による死体解剖資格の取得
- \* 病理専門医研修期間中の人体病理学実践経験
  - a) 病理解剖(剖検)で剖検診断報告書 24例以上、CPC報告書 2例以上
  - b) 術中迅速診断 50例 (生検・手術検体の病理組織診断 5000例)以上
  - c) 人体病理学に関する原著論文または学会報告 3編以上。
- \* 講習会受講 (剖検講習会、細胞診講習会、分子病理診断講習会)

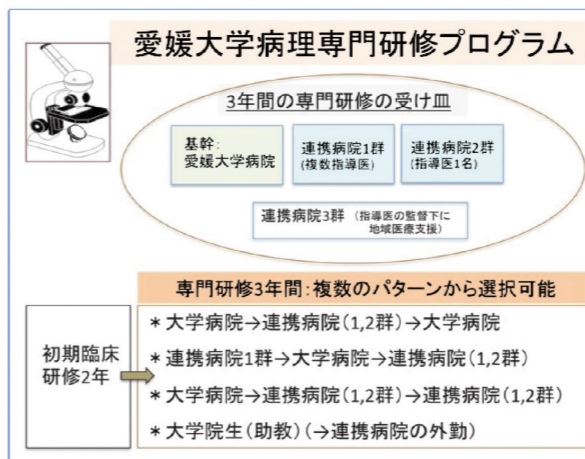


以前は、病理専門研修は4年でしたが、2015年卒業者から「臨床研修+病理専門医研修3年以上」となりました。研修年限は1年短縮された分、専門医試験合格に向けて密度の濃い研修を行うと同時に、各人の個性や習得段階に応じたきめ細かい対応が必要になります。病理解剖については、大学病院では症例も多く、最新の剖検施設を有効に活用し、臨床科各科との連携を生かした研修指導を行います。

専門医受験資格の詳細は「病理専門研修カリキュラム」や「病理専門医研修手帳」に記載されています。日本病理学会のホームページ(HOME>病理医への扉>研修カリキュラムのページ (<http://pathology.or.jp/gakuken/curriculum.html>))からもダウンロードできます。

## ④ 指導体制

病理診断科専任指導医 1名に加え、分子病理学講座、解析病理学講座の病理専門医、合わせて4名が指導します。プログラム全体では指導医17名、個性豊かな病理専門医の薫陶を受けることができます。



## ⑤ 新専門研修プログラムについて

募集定員3名/年(全体で約10名)です。専攻医(病理部医員、病理学講座大学院生や助教)として、3年間の病理専門研修を行います。左図に示すように、大学病院と連携病院とのローテーション研修が可能です。1年目は病理診断業務の基本研修を重点に行いますが、本学の分子病理学講座もしくは解析病理学との連携で研究にも従事できます。医員で「社会人大学院」進学もできますので、4年間で病理専門医資格と医学博士を両方取得することも可能です。病理診断業務/研修は、フレックスタイム勤務も可能ですので、産休後の復帰もスムーズです。私ども

は、臨床研修センターの指導の下に、病理医/病理学者のキャリア形成に向けてあらゆる支援を行います。

- 月～金: 病理組織および細胞診の診断研修と解説、手術検体の切出。病理解剖は随時。
- 水曜日13時: 剖検症例検討会(臓器供覧含む)。18時: 剖検CPC(臨床病理カンファレンス)
- 定例会: 臨床科との乳腺疾患、呼吸器、泌尿器、肝胆膵疾患カンファレンス等。
- 年数回: 愛媛県病理研究会、病理学会中四国支部会。臓器別専門家を招聘して講演会。日本病理学会総会参加や人体病理学に関する研究発表。

## 連携病院

- 連携1,2群: 県立中央病院, 松山赤十字病院, 市立宇和島病院, 四国がんセンター, 済生会西条病院, 松山市民病院, 愛媛労災病院
- 連携3群: 市立八幡浜総合病院, 県立新居浜病院, 愛媛医療センター, HITO病院, 済生会松山病院, JCHO宇和島病院, 県立今治病院, 放射線第一病院, 県立南宇和病院, 愛媛生協病院ほか

## ⑥ 研修終了後の進路

大学院進学は随時可能。病理専門医資格取得後は、愛媛大学または連携施設1,2群に勤務して、病理診断サブスペシャリティの確立、病理学研究的発展、医学教育など、進路選択に応じた経験を積んで頂きます。留学(国内外)や3群連携施設の専任病理医となることも可能です。

## ⑦ 病理専門研修の問合せ先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川  
愛媛大学医学部附属病院  
病理診断科・病理部  
部長/研修責任者: 北澤理子  
(E-mail: riko@m.ehime-u.ac.jp)  
電話 089-960-5622

病理部ホームページ: <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/section/section/id/69>  
病理学講座ホームページ: <https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/pathology1/>

\*2016年4月より国内で最新設備を備えた病理解剖室運用を開始(右図)。随時、見学、相談など歓迎致します。

